

おおさか
KEY
ワード
第15回

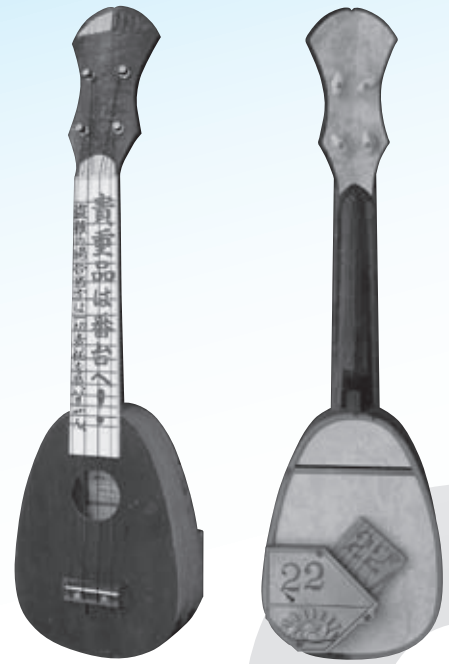
アーティスト伊達伸明がウクレレに託す思い
奏でられる記憶

長らく住んだ自分の家や店舗、思い出が詰まった学校や劇場などが取り壊されたとき、一部分でも残したかったと思ったことはないだろうか。「建築物ウクレレ化保存計画」は、取り壊される建物をハワイの民族楽器ウクレレに変えて保存しようというアーティスト・伊達伸明さんによる創作活動である。ウクレレと言っても伊達さんはミュージシャンではない。現代美術の造形作家である。伊達さんのプロジェクトは、平成12年(2000年)三条大橋の廃材によるウクレレ制作からはじまり、同年にヴォイス・ギャラリーで「建築物ウクレレ化保存計画」の第1回個展が開かれている。

伊達さんは建物が壊される前に、建物ゆかりの人たちに思い出の聞き取りをする。その建物のどの部分が住んでいた人たちに重要なか確認するのである。それを踏まえ、部材を切り出してウクレレにする。伊達さんによるとこの計画は、人の暮らしと深く関わった建築物、その廃材を使いウクレレとしてその想いを蘇らせる計画であり、今はなき建築物がより親しみやすい形に姿を変えることで、新しい生活空間で再び歴史を刻み始めると語っている。なぜウクレレか…人が手にし、胸に抱くのに手頃な大きさであり、楽器としても親しみやすいのでそれを選んだらしい。

表紙は、昭和8年(1933)に建てられ、登録文化財ながら取り壊された阿倍野区的美章園温泉のウクレレである(全体写真は本ページ上)。裏に貼り付けられた下駄箱の鍵や板の札に懐かしさがたただよう。

ウクレレ化した建物は原則として元の建物の持ち主が所蔵する。中座の火災から復興した法善寺横丁の《洋酒の店・路ウクレレ》《えび家ウクレレ》は、今でもそれぞれの店に置かれている。神戸の震災復興では《たかとり教会司祭館ウクレレ》《下山手教会ウクレレ》が制作された。たか通りのウクレレはテレビの紀行番組「遠くへ行きたい」が取材し、引き渡しの場で、ゲストであるGONTITIのチチ松村さんが



《美章園温泉ウクレレ》。表「貴重品は番台へ」の注意書き、裏に下駄箱の鍵。

演奏する姿が全国放送された。

星座早見盤、油引きされた教室の床板を用いた《愛日小学校ウクレレ》、舞台の部材を用いた《サンケイホールウクレレ》もある。無数のコンサートの音楽がしみこんだホールの“記憶”を留めるウクレレの響きはどんなものだろう。最近、小説家・開高健の東住吉区の旧宅もウクレレになった。

不況で廃業した私の実家の塗装店もウクレレにしてもらった。完成したウクレレを構えたとき、楽器のボディになった床や柱の疵痕と落書きに少年時代の“記憶”がよみがえった。母の嫁入り道具の箆笥の金具もつけたので、民俗楽器のような野趣ある響きが混ざるが、地上から消えた懐かしい家が再生し、それが奏でる音にグッと思いがこみあげた。

今月23日(土)からの大阪歴史博物館開館10周年記念特別展「民都大阪の建築力」において「建築物ウクレレ化保存計画」の作品も展示される。9月17日(土)には、伊達さんとチチ松村さんのトークとミニ・コンサートも開かれ、《通天閣歌謡劇場ウクレレ》が登場するそうだ。

過去の思い出が、人間にとって未来に生きるうえでいかに大切か、そしてアートがどれほど人を奮い立たせ、癒すことができるかを、小さな楽器の形をとった作品は切ないほどに訴えかけるのである。

※トークとミニ・コンサートは往復葉書で申し込み、お問い合わせは大阪歴史博物館。



美章園温泉の番台の一部がウクレレのボディに用いられている。